

第53回総合科学技術会議議事録（案）

1．日時 平成18年3月22日（水） 17時15分～18時12分

2．場所 総理官邸4階大会議室

3．出席者

議長	小泉 純一郎	内閣総理大臣
議員	安倍 晋三	内閣官房長官
同	松田 岩夫	科学技術政策担当大臣
同	竹中 平蔵	総務大臣（代理 菅 義偉 総務副大臣）
同	谷垣 禎一	財務大臣（代理 竹本 直一 財務副大臣）
同	小坂 憲次	文部科学大臣
同	二階 俊博	経済産業大臣（代理 松 あきら 経済産業副大臣）
同	阿部 博之	
同	薬師寺 泰蔵	
同	岸本 忠三	
同	柘植 綾夫	
同	黒田 玲子	
同	庄山 悦彦	
同	原山 優子	

（臨時）

議員	中川 昭一	農林水産大臣（代理 三浦 一水 農林水産副大臣）
議員	中馬 弘毅	構造改革特区・地域再生担当大臣
議員	猪口 邦子	少子化・男女共同参画担当大臣

4．議事

- （1）第3期科学技術基本計画（平成18～22年度）について
- （2）分野別推進戦略について
- （3）今後の科学技術政策の進め方について
- （4）科学技術振興調整費について

( 配付資料 )

- 資料 1-1 科学技術基本計画 ( 案 )
- 資料 1-2 基本政策答申からの変更箇所
- 資料 2-1 分野別推進戦略の概要について
- 資料 2-2 分野別推進戦略(案)
- 資料 3-1 第 3 期基本計画を本格軌道に乗せる改革プラン 2006
- 資料 3-2 基本政策推進専門調査会の設置等について ( 案 )
- 資料 4 平成 1 8 年度の科学技術振興調整費の配分方針
- 資料 5 第 52 回総合科学技術会議議事録 ( 案 )

5 . 議事概要

( 1 ) 第 3 期科学技術基本計画 ( 平成 18 ~ 22 年度 ) について

【松田議員】

ただいまから、第 5 3 回総合科学技術会議を開会します。

本日は総務省、財務省及び経済産業省からは、大臣の代理として副大臣に出席していただいております。また、今回は臨時議員として構造改革特区・地域再生担当大臣及び少子化・男女共同参画担当大臣に参加していただいております、農林水産省からは大臣の代理として副大臣に出席していただいております。

本日は、お手元の資料にありますとおり、4 つの議題を予定しております。

それでは、議題 1 の「第 3 期科学技術基本計画 ( 平成 1 8 ~ 2 2 年度 ) について」に入ります。

3 月 2 0 日付で政府より総合科学技術会議に資料 1 - 1 の通り、「科学技術基本計画 ( 案 )」が付議されました。

資料 1 - 2 の通り昨年 1 2 月の答申からいくつかの小幅な変更箇所がございますが、基本的にはより適切な字句への修正であり、答申を踏襲した内容となっておりますので、資料 1 - 1 の「科学技術基本計画 ( 案 )」については、総合科学技術会議として原案どおり議決したいと思いますと思いますがよろしいでしょうか。

( 「異議なし」の声あり。 )

それでは、原案通り議決いたします。

今後、関係府省において閣議決定に向けた手続きを進めていきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

## ( 2 ) 分野別推進戦略について

### 【松田議員】

それでは、議題2の「分野別推進戦略について」に入ります。  
第3期科学技術基本計画の下で、ライフサイエンスや情報通信などの8分野について、投資の選択と集中を実現しながらどのように研究開発を進めていくかを示す分野別推進戦略の最終的な案がまとまりましたので、阿部議員から資料2-1に基づき御説明をお願いいたします

### 【阿部議員】

基本計画の中の科学技術の戦略的重点化は、実は2つの大きい柱から成り立っております。

ひとつは基礎研究でございます、これは科学技術の言わば基盤とも言うべきものでありますが、多くのイノベーションは、実は個人の先見的な基礎研究からスタートしております。これは全く意外なものも多く、多様性が生命でございます。基礎研究はそのほかに、例えばニュートリノであるとか、南極観測であるとか、そういったビッグサイエンスも入っているわけでございます。

それに対しまして、今日の分野別推進戦略は、芽が出てきて、方向性がある程度わかってきたものの中から選択の集中を行うものであります。

先月の総合科学技術会議の本会議におきまして、重要な研究開発課題として、今後5年間に政府が取り組むべき課題を8つの分野から抽出いたしました。

抽出したのは273課題であります。「世界の技術との比較優位性」であるとか、「経済的・社会的な波及可能性」等によって選んだものでございますが、この中で、特に5年間の間に集中投資を行う科学技術、例えば「社会・国民のニーズに迅速に対応する」、「国際競争に勝ち抜く上で不可欠」というような62の科学技術を選びました。この中には大規模なプロジェクトであります5つの「国家基幹技術」も入っております。

5年間の研究開発目標と、それから最終的な成果目標は、すべて62について検討いたしました。

1個だけ説明を申し上げますと、ナノ材料の中で分子レベルの解析を含めた、いわゆる分子イメージングで微細ながんを早期に診断して、更にピンポイントでそこに薬を送るといったような技術の実現を図るというのもその1つであります。

この例にありますように、これはライフサイエンスではないかというふうに見られるわけではありますが、融合している部分がたくさんございます。

62 の戦略重点科学技術は、重点推進 4 分野で 20%、推進 4 分野で 13%、全体で 16% に選択と集中を行ったものであります。しかし、全体の科学技術関係予算から見ますと、約半分でございますし、先ほど申し上げました基礎研究も別でございますし、システム改革もでございます。これらにつきましては、基本計画に沿って 4 月以降早急に詰めていく予定でございます。

研究開発費だけではなくて、さまざまな推進方策が必要でございます。「モノから人へ」、人材についてであります。全体として横串の人材は勿論ありますけれども、それぞれの分野特有のものなどがここに書かれておりますし、また治験などの体制整備もその 1 つでございます。

この戦略重点化に基づきまして、毎年度の資源配分を着実に反映していきたいという内容でございます。

以上です。

**【松田議員】**

ありがとうございます。それでは、本件につきまして、何か御発言がございましたらお願いいたします。では、文部科学大臣お願いします。

**【小坂議員】**

分野別推進戦略におきまして、多くの科学技術課題の中から、今後 5 年間に集中投資すべき戦略重点科学技術を選定していただきました。大変な御苦労であったと思って、まずもって心から敬意と感謝を申し上げます。文部科学省といたしましては、しっかりとそれらの実施を図っていく考えでございます。

特に、ただいまお話をいただきました宇宙輸送システム、海洋地球観測探査システム、あるいは高速増殖炉サイクル技術、次世代スーパーコンピュータ、あるいは X 線自由電子レーザー、こういった 5 つの国家基幹技術も決めていただきました。国家基幹技術は社会経済への広範な波及効果が期待されるものでございますし、しっかりと連携を図りつつ、政府一丸となって推進することが必要であると思っております。財務大臣を始め、関係大臣の一層の御協力を切にお願い申し上げます。

**【松田議員】**

ありがとうございます。

それでは、総務副大臣お願いいたします。

**【菅総務副大臣】**

松田大臣を始め、委員の皆さんの御努力に心から敬意を表したいと思います。

総務省としましては、2010年のユビキタスネット社会の実現に向けて、政府の新ICT戦略と一体となったu-Japan政策、これを、今、推進いたしておりますけれども、この研究開発につきましては、この戦略を踏まえまして、情報通信技術の研究開発を積極的に推進し、その成果が社会や国民へ適切に還元されるよう、全力で頑張っていきたいと思っております。今後ともよろしく願い申し上げます。

**【松田議員】**

ありがとうございました。

それでは、経済産業副大臣お願いします。

**【松経済産業副大臣】**

分野別推進戦略におきましては、研究開発投資の選択と集中、これによるメリハリを付けることが大事であると思っております。

集中投資された予算がきちんと成果を上げられるような柔軟な仕組みが私は必要ではないかと思っております。

第3期の基本計画及び分野別推進戦略は、経済活力向上等のイノベーション創出を重視しておりまして、明日中間とりまとめを行います新経済成長戦略と目指すべき方向は一致しております。新経済成長戦略と第3期基本計画を車の両輪といたしまして、日本に新しい成長をもたらしたいと考えております。

以上でございます。

**【松田議員】**

それでは、竹本財務副大臣お願いします。

**【竹本財務副大臣】**

財務省でございますが、諸先生方の大変な御努力によりまして、立派な第3期計画と、先ほど御説明のありました分野別推進戦略ができましたことについて敬意を表したいと思います。

財務省といたしましては、当然のところながら財政状況が厳しい中でございますけれども、科学技術予算については、最大限配慮しているところでございます。

今後は、こうした計画や戦略を踏まえまして、総合科学技術会議のさらなる

リーダーシップによりまして、選択と集中を一層徹底していただきたいと考えております。

政府研究開発投資が、真に生きた投資となって、具体的な成果へとつながり、国際化の流れの中で魅力ある日本をつくっていく原動力となることを期待しているわけでございます。

なお、毎年の予算編成におきましては、第3期計画にもありますとおり、政府全体として財政構造改革に取り組んでいかなければならない中、第2期基本計画の中に比べて、更に厳しさを増している財政事情を踏まえる必要がございます。分野別推進戦略や社会経済情勢なども踏まえながら、予算要求の中身を是々非々で精査していくことになると思います。

その際、先日、総理も国会で御答弁されておりましたとおり、研究開発には重点的に取り上げていくべき問題、今までの実績を見て削減してもよい問題の両方があることから、科学技術担当大臣及び有識者議員の皆様による優先順位づけ、つまりS A B Cの取り組みが更に充実されていくことを大いに期待いたしたいと思っております。

先ほど御説明がありましたように、科学技術の発展のために貢献すると同時に、国民の最大の関心事であります、例えばがんについて総合的な多方面の技術を活用して新しい試みをやるということは、国民の悩みに対して応えていく科学技術の高揚を示す意味にもなりますので、是非そういう意味でも頑張りたいと思っております。

以上でございます。

**【松田議員】**

ありがとうございました。

それでは、農林水産副大臣お願いします。

**【三浦農林水産副大臣】**

基本計画及び分野別推進戦略をとりまとめいただきまして、関係者の皆様方に敬意を表します。

分野別推進戦略では、第3期に集中投資を行う戦略重点科学技術が選定をされましたので、農林水産研究におきましても、ライフサイエンス分野や環境分野の戦略に従いまして、重点化を図りながら研究を進め、第3期科学技術基本計画の基本姿勢として掲げられておりますように、その成果を社会・国民に還元してまいり所存でございます。

以上です。

**【松田議員】**

ありがとうございました。  
柘植議員お願いします。

**【柘植議員】**

分野別推進戦略の実行に向けまして、ひとつ総理にお願いがございます。  
分野別推進戦略の実行というのは国民の理解を深めることでもあります。私ども民間議員も国民の理解促進に注力しておりますけれども、特に議長であります総理が国会の施政方針演説にも言っていただきましたけれども、更にテレビ、新聞等で直接国民に対してのメッセージとして科学の面白さ、それから技術の大切さ、そして国家基幹技術の重要性を発信していただきたいと。お父さんたち、お母さんたちは、総理のメッセージを聞けば、子どもたちも科学と技術の大切さということも伝わりますし、学校での勉強の目標もはっきりすると思います。そういう意味で、総理の国民への直接のメッセージは、人づくりの面でも非常に役に立つと思いますので、お願いしたいと思います。

**【松田議員】**

少子化・男女共同参画担当大臣、お願いします。

**【猪口臨時議員】**

女性もまた科学者の道を堂々と歩む時代であるということも付け加えていただければ大変有り難いです。前日も申し上げましたとおり、日本では科学者も含め研究者に女性が占める割合は、11.9%でありまして、まだまだ努力して道を拓いていく必要があると思います。

**【松田議員】**

ありがとうございました。  
それでは資料2 - 2の「分野別推進戦略(案)」を、原案通り決定することとしたいと思いますがよろしいでしょうか。  
(「異議なし」と声あり)

**【松田議員】**

ありがとうございました。  
それでは、原案通り決定し、科学技術基本計画の閣議決定日に合わせて、総合科学技術会議から内閣総理大臣及び関係大臣に対して意見具申することといたします。

### ( 3 ) 今後の科学技術政策の進め方について

#### 【松田議員】

それでは、議題3の「今後の科学技術政策の進め方について」に入ります。

4月から第3期基本計画の実行段階に入りますが、世界最高水準の科学技術創造立国の実現に向けて、早急に取り組むべき課題について、私から有識者議員の方々に問題提起をして頂くようお願い致しました。これを受けて、有識者議員の方々が考え方をおまとめ下さいましたので、これを基に皆さまで御議論頂きたいと思います。それでは、阿部議員から資料3 - 1に基づき内容の御説明をお願いいたします。

#### 【阿部議員】

いよいよ4月から第3期基本計画が実行段階に入るわけですが、その本格軌道に乗せる改革プラン 2006 というものを8名の有識者議員連名でつくらせていただきました。

分野別推進戦略については、相当やったわけですが、ほかの点は、これからのものがたくさんございます。特に、25兆円と書いていただいたわけがありますし、総理の御発言の「明日への投資」ということが本当に有効なものになるためには、各府省における科学技術の役割の再点検と、そのために本当に良い政策をどんどん提案して、科学技術の比重を拡大していく必要があるわけがあります。

そのために、「『選択と集中、戦略性の高い研究開発投資』の実現に向けて」ということを提案させていただきました。

先ほども申し上げましたけれども、分野別推進戦略、これは各省ともに非常にエネルギーを割いていただきましたが、もう一つの柱であります、ここでは両輪と書いてありますが、基礎研究の推進についても同じようにエネルギーを割いていただかないといけないわけでありまして、それをお願いするということ。

また、第3期の精神に合ったS A B C付けの改革もやっていきたいということでもあります。

「スピーディな改革着手と実行」ですが、「研究競争力の強化とイノベーション創出」とございますが、日本は優れた研究者がたくさん出てはおりますけれども、組織として、例えば大学に目を向けた場合に、必ずしも世界トップクラ



スの研究拠点としての魅力はまだございません。世界中から優れた研究者、学生が集まって来る、世界中が、今、研究者、学生の獲得競争にあるわけでございます、それに対して十分魅力あるものにどうやってつくっていったらいいかということ。

それから、イノベーションにつきましては、第1期、第2期、大分いい例が出てまいりましたけれども、まだまだ数が少ないわけでありまして、総合的な戦略をどうしたらいいか等でございます。

次に「制度改革」がございます。非常に大きい改革をしてみますと、当然のことながら、新しくハードルが出てきたり、運用面での隘路が出てまいりますので、そういうものを十分に調査いたしまして、その解消の具体案を出していきたいと。

例えば、優れた外国人が日本に来てくれるのを阻んでいるのは何であろうか、あるいは我が国の治験の促進をどうしたら図れるだろうかというようなことで、省を超えたお手伝いをしていきたいと思っております。

それから「国民理解」につきましては、言わば第3期の大方針の1つでございますが、我が国は、今までもいろんな努力をしてきたわけでありましてけれども、必ずしも十分ではありません。政府一丸となった戦略をどうすればいいかということで総合科学技術会議のリーダーシップを進めていきたいということでございます、とりあえず大きい1と2につきまして、8名の連名で提案をさせていただきます、できれば4月以降、2か月ぐらいを目途に精力的に議論をしていきたいと。当然、各省の御協力が必要でありますので、併せてよろしくお願ひしたいと思います。

以上でございます。

#### 【松田議員】

ありがとうございます。それでは、有識者議員の皆さんから、順次御発言をいただきたいと思ひます。

薬師寺議員からお願いします。

#### 【薬師寺議員】

小泉内閣の改革路線を受けまして、第3期基本計画の全体像を見ますと、第2期に比べますと、非常に変革に成功いたしました。

しかしながら、改革路線を確実に進めるには、まだまだ制度改革をする必要がある。それに関して、2点注意を払う必要があると思ひます。

第1点は、国家基幹技術と言われている部分、やはり第2の公共投資にならないように、総合科学技術会議がそれを選別して、S A B C評価を厳正に行

い、いわゆる外部政治勢力からの圧力を減殺しながら、独立を担保するような制度改革が必要であろうと思います。

第2点は、科学技術予算に関しまして、省益拡大の予算という伝統がある。そうではなくて、国民に対して夢を与え、説明責任を明らかにして、基礎科学や人文社会科学を含めた戦略構想に根差した予算でなければなりません。

そのためには、各省が連携をして、戦略提案できるような科学技術予算の制度改革が必要であろうと思います。これらの制度改革を行って初めて、総理がおっしゃっていただいた未来への投資、明日への投資が生きてくるものと思います。

以上です。

【松田議員】

岸本議員、お願いします。

【岸本議員】

今、学校は卒業式のシーズンです。「仰げば尊し」の中に「身を立て、名をあげ」という言葉、これが議論の対象になっていると新聞のコラムにも書いてあります。

米、中、韓と日本の高校生にアンケートして、「学校でよい成績を取りたいか」あるいは「よい大学へ進みたいか」という問いかけをすると、米、中、韓の70%以上の学生はイエスと答えます。それは当然のことだと思えます。

ところが、日本の高校生はたった30%がイエスと答えます。「そこそこお金があったら楽をして暮らしたい」というのが、一番多い答えになっていると伝えられています。

なぜそういうことになってきているのか。それは学校教育において競争を否定し、そして皆同じである、ゆとりの教育だということをやってきたことに一因はないのかということも考えなければならぬと思います。

ひょっとしたら日本の将来にとって、これは少子化よりももっと重要な問題であるかもしれないと思います。

第3期の科学技術基本計画では、科学技術は明日への投資であり、「モノから人へ」という基本理念を掲げました。この理念を実現するには、意欲のある優れた人材をつくる。それは高校、大学、特に大学が重要な役割を果たさなければなりません。大学を競争的にする。それを実現するのは、資源配分の方向性を均一平等の原則から競争的へと変えていくことです。

しかし、そこで重要なこと、忘れてはならないことは、大学への資源の投入の全体のパイを縮小してはならないということです。

科学技術予算は、私はいつも言っていますけれども、決して公共事業ではないということです。国家基幹技術と称されるものには後ろにたくさんの応援団が付いていますけれども、どんどんと予算を増やしていくということがあってはならないと思います。

大学への投資も決して学生の頭数で平等に配分するべきものではありません。しかし、大学への資源の投入と国家基幹技術と称されるようなものへの資源の投入とのバランスをどういうふうにとっていくか。それは第3期の科学技術基本計画の「モノから人へ」という基本理念が生きるか死ぬかにも関わってくることになると思います。そういう意味において、文部科学省の役割、責任は非常に重要であろうと思います。

以上です。

【松田議員】

柘植議員、お願いします。

【柘植議員】

いずれもこのプランは科学技術創造を国づくりに結実させるために必須な、大変重要な改革事項でございますが、私、産業経験者として、特に重要な改革は「イノベーション創出による我が国の競争力強化のための総合的な戦略の策定」という部分でございますが、これは総合科学技術会議自らのコミットメントであります。ここでは政府の科学技術投資を社会的、経済的な価値創造に結び付ける、いわゆるイノベーションでございます。イノベーションの創出によって我が国の競争力強化への総合的な戦略構築をコミットしているわけでありまして、この実行は容易ならざる命題であると、覚悟が必要であります。

第1は、総合科学技術会議自らの責任で実行が可能な国の科学技術経営改革、先ほど薬師寺議員、岸本議員がおっしゃったことも含めます。

同時に、文部科学省を中核とします基礎研究を社会への成果還元責任を持つ各府省、この開発研究、これを結ぶ仕組みの強化、すなわち知の創造を社会的価値創造に結び付けるというイノベーションのパイプラインのネットワークの強化が主軸になると思います。

第2点は、科学技術のイノベーションだけでは、イノベーション全体を構築することができないということは論を俟たないわけでございますが、ここでコミットメントしています総合的な戦略策定と、これはまさに財政、税制改革あるいは産業政策、規制改革、更には教育改革、相互乗り入れをなしには総合戦略はできないわけでありまして、この点の実行策を本会議で掘り下げて、関連会議等の連携を図っていくということが必須であります。以上です。

【松田議員】

黒田議員、お願いします。

【黒田議員】

もう一度資料の2 - 1の6ページを見ていただきたいと思います。

先ほど阿部議員もお話しされましたが、分野別の選択と集中というのは、真ん中の上の方の黄色の部分の1兆7,856億円に対してであります。

実は、新しいブレークスルーを導いた研究の元を正していくと、その左の白い部分「研究者の自由な発想に基づく研究」から出てきているということでもあります。

つまり、目的のための基礎研究というのは、大変重要なんですが、一方で発見されたものが全く異なった、思ってもいない違う分野で、10年、20年先に新しい学問を生み出すとか、新しい日本の産業を生み出すとか、そういうことになるということが本当の意味での国力の源泉だと思っております。

では、どうしたらいいのかということですが、この左の白い部分の中だけで、大学の基盤的資金と競争的資金のバランスをどうするかということを考えるのではなくて、この白い部分の全体のパイをどうやって充実させていくのかが重要であるということが第1点。

それから、左の自由な発想をどうやって黄色の部分に持っていくのかということではないかと思えます。

つまり、自由な発想の研究を飛躍させる、マインドとか、基礎的な知識というものが無いとできないということです。パスツールの有名な言葉の中に、「好機、グッドチャンスは準備された心に宿る」というものがありますが、基礎知識もあって生き生きとして発想が豊かな人は発見を逃さずに違う分野にも展開できる、新しい学問にも新しい産業にも展開できるということで、結局は人材ではないかと思えます。

つまり、初等・中等・高等教育を通じて、本当に自然の不思議さとか、すばらしさとか、怖さとか、科学の発見の楽しさとかいうものに触れて道を開いていくリーダーを育てていかなければいけない。

そして、そういう人が集まったCOEができて、そこに今度は世界の優れた頭脳が集まってくる。そういうものをつくっていくということが、5年間で25兆円の投資が光るものになるかどうかの鍵ではないかと思えます。つまり、黄色い部分だけを考えないでいただきたいと思います。

以上です。

【松田議員】

庄山議員、お願いします。

【庄山議員】

今回のテーマの絞り込み、あるいは選択と集中というのは、非常に大切なことを短期間でやれたというふうに思っていますけれども、どうしても研究者というのは自分の研究を選んでほしいということで、そういうふう動くわけございまして、こうした中で今回の戦略重点化のプロセスにつきましては、8つの分野ごとに、非常に多数の、総勢300名を超える方々の英知を集めたもので、よくまとまったものだと思っておりますし、今後もこの方式の継続が大切だと思っております。

一方、この投資効率を上げるためには、重点化したテーマの実行状況のフォローアップというのが大切だと思っております。それにはPlan・Do・Check・ActionというPDCAサイクルをきちっと回すという習慣づけをやっていくことが必要だと思っております。

今、黒田議員からもお話ございましたけれども、今回は政策課題対応型研究開発というところを対象にいたしました。18年度の予算でいいますと、1兆8,000億円の重点化ということでございますが、やはり将来の日本の科学技術創造立国の基盤となる基礎研究部分、あるいは科学技術システム開発というのは、どのように強化していくのかを、今後マクロに企画して推進方策を示していくことが総合科学技術会議の任務だと思っております。

ここで評価が難しい基礎研究部分の重要性を皆で認識すべきであり、どうあるべきかということも考えていく必要があるのではないかと思っております。

また、イノベーションを実現する方策といたしましては、今後もいろんな形で産業界から御提案をさせていただきたいと思っておりますけれども、イノベーション創出の具体化に向けて単独省ではなくいろんな府省が連携して出す案件を増大していく、あるいは世界に通用する人材の育成に力を尽くしたいと思っております。

また、よく言われております、子どもたちの理科離れの改善のためにも、各省での取組みを強化していただくとともに、やはり国民運動として、国民ひとりひとりが取り組む運動を促進すべきではないかと思っております。企業もCSRの観点から是非協力させていただきたいと思っております。

以上でございます。

【松田議員】

原山議員、お願いします。

【原山議員】

私は、イノベーションの創出という視点から、2、3コメントを述べさせていただきます。先ほど、経済産業省の方から新経済成長政策の発表がございましたが、やはりイノベーションというのがキーワードになると思われれます。その中で、どうするかという話になります。イノベーションとは何かというところに戻りますが、やはり未開の業というものにチャレンジすることだと思えます。であるからこそ、確実にイノベーションを実現するシナリオというものも存在しないわけです。これはアメリカでもそうですし、ヨーロッパでも模索中ではありますが、これというものも存在しません。

しかしながら、イノベーションが起こりやすくなる環境というものをつくることは可能であって、それをまず強化しなければいけないということです。今、欧米におきましてイノベーションのエコシステムの構築ということが言われております。日本型のイノベーションのエコシステムとはなんぞやということを早急に考え、また具体化することが望まれると思われれます。

1番目の鍵は、やはりそういうことを起こす人、もう一つは制度改革であります。その2つの点でございます。

2番目ですけれども、イノベーションの主演というのは、あくまでも企業であります。科学技術というのはそれをサポートする大きな要因でありますけれども、出口というのは企業が出口を担うことが重要でありまして、今の庄山さんのお話にもありましたように、企業との連携が非常に重要となります。

もう一つ、別の視点ですが、女性という話で、私自身女性ですので話させていただきます。これまで私自身女性研究者を何%というのは反対でした。しかし、なかなか毎日の生活をしておりますと、男性の職員の方たちが女性と仕事をすることに慣れるということがまず重要だと思うんです。ですので、まず何%とした上で、女性がいることが当たり前になったという状況をつくることが重要だと思えますので、私はその方向に賛成することにしました。

【松田議員】

阿部議員、お願いします。

【阿部議員】

「モノから人へ」ということで、人材の確保が重要だというのは、総論としてはもう皆さんおっしゃるとおりでありますし、第3期の大きい柱であるわけですが、実際は人材というのは2年や3年ででき上がるものではなくて、極めて長期的なものでありますけれども、必ずしも政策は長期的でなくて短期的な

ものがたくさんございます。では、短期的がだめかということそうではなくて、インパクトを与える意味では短期的な政策が非常に有効なんですけれども、ただ少し長期的な視点が少な過ぎるのではないかとということを危惧しております。課長さんとか、局長さんが、自分の任期中に何とかいい案を出したいということだけに御熱心になられますと、どうしても短期的になりますので、併せて長期的なものをきちんとやっていくということで御指導いただくように、よろしくをお願いいたします。

【松田議員】

ありがとうございます。

それでは、各大臣からも御意見がございましたら、御自由に御発言をくださいませ。

文部科学大臣、どうぞ。

【小坂議員】

ただいま御説明いただきました、新しい第3期の基本計画を推進するに当たりましては、まず、研究競争力の強化に関して、研究人材の育成や、大学を中心とした基礎研究の推進が必要であります。先ほど、阿部議員からおっしゃっていただきましたように、今の大学が世界から大変魅力的、優秀な人材を得て、そして大学院教育の飛躍的な充実を図れるような環境にあるかと言いますと、はなはだ疑問でございます。まずもって外国の人が来るには、その子弟の入る学校の環境整備から始まって、そういったもの、また研究施設の近代化ということも必要でございます。文部科学省としても、大学院教育振興施策要綱を策定いたしまして、国際的に魅力ある大学院づくりを推進してまいりたいと考えております。

また、イノベーションの創出につきましては、従来にない新たな可能性を切り拓いて、大きな社会的な価値、あるいは経済的な価値の創造に結び付けていくことが重要でございます。多様な基礎研究の中から革新的な新技術の芽を創造・育成していく施策を中心として取り組んでまいりたいと存じます。

それには、やはり並行して国民の理解というものが必要でございます。これだけの巨額の投資を行うわけでございますので、国民の理解の増進のために取り組んでまいりたいと思っております。4月17日から科学技術週間というもの、松田大臣に大変努力していただいて実施をすることになっておりまして、この中ではサイエンスカフェを全国で開催するなど、いろいろな理解促進のイベントを含めた活動をしたいと思っております。私といたしましては、こういった場で、大変先端的な研究を推進してらっしゃる著名な皆さん

に、科学技術の今の姿をわかりやすく説明していただくようなことも1つありますし、また研究室にいる、それぞれの地域で頑張っている研究生、ラボの皆さんに持続的に市民の皆さんと対話をしていただくようなこともまた刺激の1つになるのではないかと思います。

わかりやすく、子どもにも刺激を与えて、理科、科学というものに対する興味を湧かせること、こういったことが国民挙げて科学技術に対する支援体制をつくることにもつながっていくと思っております。

こういった観点からも施策に盛り込んで頑張ってもらいたいと存じます。よろしく御指導のほどお願い申し上げます。

【松田議員】

猪口大臣、お願いします。

【猪口臨時議員】

私からもどうぞよろしく申し上げますと申し上げます。特に女性研究者の発展につかまして、特別のご配慮をいただければと思います。研究者として、最初の中核的な業績を出していかなければならない勝負の時期と、子育て期の年齢がしばしば一致していますので、女性が研究をなかなか続けることができない。継続難の実態があると思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

少子化予算と比べますと、科学技術は大変豊かな予算を活用していますが、今後我が国におきまして、そのような科学技術を担っていく人材が生まれ育っていくことも大変重要ですので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

また、理科離れにつかまして、先般ある女子大学で「女性と科学」ということで講演を行いましたとき、たくさんの女子高校生の参加を得て、会場の質問に答える中で、なぜ理科に進んでもらいたいかについて話す機会がございました。それは、理科が面白いからということにとどまらず、人間社会をより良くする、そのことを伝えていただければと思うとお話しました。女子高校生たちがみな、なるほど、理科に進むことによって、この世を良くしていくことができるんだという、その最も大事な根本を認識できた瞬間に、何か感動の輪が広がったことがございます。私は政治もそうだと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

【松田議員】

経済産業副大臣、お願いします。

【松経済産業副大臣】



科学技術は、明日への投資、人材育成は明日への投資であると私も思います。イノベーションというのは、未開の業というふうにおっしゃいましたけれども、まさにその未開の業創出のためには、先ほど文部科学大臣もおっしゃいましたように、サイエンスを担う大学の競争力強化が非常に重要でありますので、当会議でもやはり重点的に取り組まなければいけないと思っております。

また、イノベーション創出のためには、我が国が学問や研究の拠点となることも重要ではないかと考えておまして、特にアジアとの間で優秀な研究者や学生を受け入れるための奨学金制度、これは私どもの二階大臣が、日本版フルブライト奨学金を提唱していらっしゃいますけれども、そういうことも考えております。

また、理科離れの話でございますけれども、アメリカでは高校生までの理数教育の抜本強化、これを大統領がもう大々的に訴えられましたけれども、我が国も遅れを取ってはいけないと私も考えております。

私ども経済産業省といたしましても、地域の優秀の方、有能な方、例えば、モノ作り博士を派遣することなどで、理数教育の充実、授業に役立てていただきたい。これにも取り組まさせていただきたいと考えております。

**【松田議員】**

総務副大臣、お願いします。

**【菅総務副大臣】**

今回もこの重点推進分野に位置づけていただいた情報通信分野でありますけれども、これは欧米諸国やアジア、それぞれの国は戦略的に取り組んでおりますので、我が国も国際的な競争力の強化ということが極めて大事であると思っております。そのためには、大学とともに公的研究機関の果たす役割も大事だと思えます。

総務省所管に情報通信研究機構というのがあるんですけども、これは情報通信を専門とする公的機関であり、今度の国会で非公務員型の法人にするための法改正を今、行っております。この第3期基本計画の機関において、我が国の研究開発力の向上や国際標準化活動の充実強化、更にはこれを支える情報通信分野の人材育成にも貢献をしていきたいと思っております。

こうした取り組みが、円滑にできるような、そうした環境整備をお願い申し上げたいと思えます。

**【松田議員】**

財務副大臣、お願いします。

【竹本財務副大臣】

今般の科学技術予算でございますけれども、前回の第2期に加えまして、更に厳しさを増している財政事情がございますので、非常に有効な御支援を是非お願いしたいと思っております。特に、例えば研究資金の配分に関しまして、的確な目利きができるような審査、評価体制の抜本的強化を図りまして、投入面というよりは予算執行の現場において投資効果を最大限発揮させるような取組みを強化していただくことを、特に期待いたしております。先ほどお話ございました、P D C Aサイクルの活用とか、そういったいろんな手法を用いまして、国民から見ても、ああそういうふうにお金が使われているんだということがわかるような努力を是非お願いしたいと思っております。

以上です。

【松田議員】

農林水産副大臣、お願いします。

【三浦農林水産副大臣】

3ページの国民理解につきまして申し上げます。農林水産研究におきましても、遺伝子組換え技術等におきましては、国民の期待が非常に高い一方で、不安を抱く動きも見られます。このことから、その理解を得るために、さまざまな取組みを行っているところでございます。

このような新しい技術について、国民の理解を得ていくためには、学校での理科教育の充実や国民と研究者のコミュニケーションを政府全体として取り組んでいく必要があると考えております。

以上です。

【松田議員】

大変有益な御議論をいただき、どうもありがとうございました。本日の御議論を踏まえ、4月からの基本計画の実行に取り組んでいきたいと思っております。

【小泉議長（内閣総理大臣）】

理科系が大事だというけれども、年齢的なものはないですか。私はスポーツでも、オリンピック選手や野球選手、サッカー選手を見ていると、どうしても年齢的なものがあるように感じますね。理科系だって、幾ら熱心に教育したって、一定の年齢があるのではないですか。

**【薬師寺議員】**

中学生ぐらいで、大学に行くともう遅いんじゃないかという感じがします。

**【小泉議長（内閣総理大臣）】**

そうでしょう。政治家は何歳になっても大丈夫だけれども、この理科というのは早い年齢で興味を持たないとだめだと思いますね。

**【阿部議員】**

分野によると思うんですが、純粋数学なんかは、やはり相当若いときにホームランを打っている人が非常に多いんじゃないかと思います。日本のノーベル賞受賞者の最近の3人の化学の人は、最初のホームランは全部30までに打っております。しかしながら、そこが難しいところですが、70からの仕事でノーベル賞をもらった人もいるものですから、そこは非常に難しいんですが、一般的には日本は若い人で、非常に優れた人をきちんとサポートするというのは、まだまだ遅れていると思います。そこは、具体的にどうするかというのは、いろいろ難しい点もあるんですが、ボスの片腕になってないと伸びない人もいます。ですから、そこが非常に難しいですけども、やはりおっしゃるように私は分野によって若いときにちゃんと伸ばさないといけない分野というのは確実にあるように思います。

**【小泉議長（内閣総理大臣）】**

70歳以上の方が能力があったとしても、その人が若いときから科学技術に関心がないとそれは難しいでしょう。

**【松田議員】**

柘植議員、どうぞ。

**【柘植議員】**

私は科学者になれなくて技術屋になったんですけども、やはり社会を支えているのはまた、科学と同時に技術が支えているわけです。ですから、技術のサイドの人材を増やしていくというのは適齢期というよりは、役に立つんだ、それと同時に小学校のときから面白い、と思った上で役に立ちたいという志、これは才能というよりも教育で、両方あると思います。

**【松田議員】**

原山議員、どうぞ。

**【原山議員】**

やはり旬があると思います。それは分野によって違います。私自身の体験からいきますと、若いときに、20代で数学をやりました。すごく楽しかったです。でも、その後結婚して子どもを産んでブランクが開いたら、もう完全にそこに戻ることはできませんでした。そこから人文社会の方に移ったわけです。こちらは、社会体験することによって自分の力が付いたという意味で、教育学、経済学、そういった分野では後からでも更に今までの体験を生かすことができる分野です。

それから、一般の方に関してリテラシーという問題があると思います。言葉についてのリテラシーはありますけれども、科学技術についてもリテラシーがあって、それはやはり全体的に高めなければいけない。そのためには、下のレベル、小中学校の時代に、それこそ楽しい先生と出会うという機会を持たせることが重要だと思います。

**【松田議員】**

黒田議員、お願いします。

**【黒田議員】**

あと親の影響も非常に大きくて、母親あるいは父親が全然科学技術に興味がないというのでは、絶対いい子は育たないと思いますので、その辺は皆様も是非、学校の先生だけではないということを理解していただきたいと思います。

もう一つは、やはり子どもが何になりたいかということ、イチローであり、松坂であり、ゴルフプレーヤーであり、スポーツ選手ばかりなんです。科学者にあこがれてくれないとまずいと思います。これは何とかしたいと思います。

科学者になるという志を持つようにというのではなくて、やはり科学者になりたいと思う雰囲気にしていかないといけないと思います。

**【松田議員】**

庄山議員、どうぞ。

**【庄山議員】**

皆さんから出たお話のとおりだと思うんですが、やはり小学校高学年、あるいは中学ぐらいのときに会う先生の影響というのはかなりある。それから、親はそう簡単に変えられませんが、勿論、親とか親類、縁者にどういう人がいるかということの影響があることは事実です。だから、このままどんどん理系

離れが増えていくと、本当に日本は大変なことになると思いますので、まずはできるところは小中学校高学年の理科の先生方が、本当に理科が好きな先生でないためではないかとよく言われています。

【松田議員】

岸本議員、お願いします。

【岸本議員】

少し違うんですけども、10代のころ、別に理科好きとか言わなくても、もっと幅広い、文学でもいいし、何でもいいし、例えば大阪大学の初代の総長だった長岡半太郎は、突出した物理学者ですけども、書いてあるものを見たら、親あるいはおじいさんが、子供の頃ずっと漢文ばかりを教えていたりとか、朝永振一郎や湯川秀樹も多分そうだっただろうし、だから非常に幅広い、どれだけ幅広い教育を受けるか、それは家庭環境もあるし、学校環境もありますが、そういう学問が好きになるということが大切です。理科が好きになるかというのは、やはり高等学校から大学へ入ったころの、どの先生と出会ったか、私の経験もそうですけれども、そういうことだと思います。

それから、年齢によって差があるかというのは、20代、30代というのは、やはり抜群の集中力、どこまで考えていっても疲れないということがあります。数学は、特に集中力が大切で、ずっと、何日でも何日でも考えることが大事です。それは将棋と同じことで、将棋も若いころがすべてで、それは集中力がどれだけ続くかということです。ところが年をとってくると、政治はどうか知りませんが、我々みたいなことをしているのも、やはり全体を俯瞰する能力というのは、年がいったらある程度発達してくるし、だから、年がいくと全体を俯瞰しながら、あるいは評価しながらというふうな役割をすることになってくる。それは将棋と碁が違うのは、碁は全体を見るので、ある程度年がいったらできるけれども、将棋は非常に若くないと集中力の問題があるのだと思います。そういう年代の問題はありますけれども、10代には理科好きだとか、実験を教えるとかしていますが、これは面白いと見せるだけではなしに、もっと深い学問を、いろいろな学問をさせる。芸術、文学、どれだけ幅広いバックグラウンドを持っているかが大事だと思います。

【松田議員】

前の東工大の総長だった末松先生は、我がふるさとの中津川市で、毎夏全国の子どもたち80人、一流の先生を集めてサマースクールをやっておられるんです。その先生の話だと、中学2年を対象にしている、中学2年で大体進路を決

めると。もう高校ではだめだと。もう十何年やっていて実証的データをこの間見せていただいたんですが、一般には理科系を希望するのは大体3割です。ところが、その3日間のサマースクールに来た自分が教えた子どもたちは7割が理科系だという話をされておられました。あくまでも御参考ですが。

総理の御質問によって、いろいろ非常にいい意見をありがとうございました。

次に、4月以降、第3期科学技術基本計画に沿った政策の確実な推進を図るため、新たに基本政策推進専門調査会を設置したいと思います。資料3-2の「基本政策推進専門調査会の設置等について(案)」を、原案通り決定したいと思いますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり。)

それでは、原案通り決定し、4月1日付で基本政策推進専門調査会を設置することといたします。なお、基本政策推進専門調査会の設置に伴い、3月31日付で基本政策専門調査会及び重点分野推進戦略専門調査会を廃止することといたします。

さて、第3期科学技術基本計画では、社会・国民に支持され、成果を還元する科学技術を基本姿勢といたしておりますが、ただいま御議論がありましたように、若者を中心に、あるいは国民一般がかもしれませんが、科学技術に関する関心というものが低下傾向にあるとされております。

科学技術に対する国民の理解、支持を得ていくためにも、第3期基本計画の候補を始めとして、科学技術に関する国民理解の増進に一層の力を入れて取り組む必要があると存じます。私も4月1日に親子タウンミーティングを開催するとともに、4月17日からの科学技術週間中の行事にもできるだけ参加いたしまして、科学技術への国民の理解増資に努力していきたいと思っておりますが、どうぞ今日御出席の関係閣僚、関係副大臣におかれましてはお願い致します。

実はそれぞれの省の取り組みについて調べました。各省全部で約450ほど、国民理解増進運動をされておられます。本当にたくさんの運動がされておられますが、その割には効果はどうなんだということを思いますと、一層これらの取り組みを連携を取り、効果的なものにしていく努力を、まさに先ほど来のお話のとおり、総合科学技術会議が中心になってやっていきたいと思っておりますので、一層御協力をいただきたいと思います。

#### (4) 科学技術振興調整費について

【松田議員】

次に、議題４の「科学技術振興調整費について」に入ります。

平成１８年度の科学技術振興調整費については、新たに「人材の育成」や「イノベーションの創出」に関する６つの新規プログラムを推進することとし、資料４の通り、「平成１８年度の科学技術振興調整費の配分方針」を決定いたしましたので、御報告いたします。

(報道関係者入室)

【松田議員】

最後に、小泉総理から御発言をいただきたいと思います。

【小泉議長（内閣総理大臣）】

今日もいろいろ議論をありがとうございました。

予算は削るばかりで伸びているのは科学技術だけですから、その中でメリハリを付けるのは大変だと思います。

削られた方は不満が多いようですし、伸びた方もまだ不十分だという不満もあるかとは思いますが、これからも今日のお話のように、重点化あるいは削る方も含めて、これは大変政治力もいると思いますが、科学技術は重点分野ですので、才能を生かしてよろしく願いいたします。

(報道関係者退室)

【松田議員】

どうもありがとうございました。

なお、既に御確認いただいております前回の議事録につきましては本会議終了後、公表させていただきます。

また、本日の配付資料につきましてもすべて公表することいたします。

以上をもちまして、本日の総合科学技術会議を終了させていただきます。ありがとうございました。